

甲南大学
理工学部生物学
細胞学研究室

知られざる アリの能力を探つて

講師 後藤 彩子さん

人生を変えた 夏休みの自由研究

「アリは楽しいですよ」。気さくな笑顔で迎えてくれたのは、甲南大学理工学部生物学の講師、後藤彩子さん。一口にアリといつても、日本に約300種、世界には約1万種も存在するといわれ、大きさや色も、さまざま。その生態には驚くほどの多様性がある。訪れた細胞学研究室でも数多くのアリを飼育している。

アリといえば、働き者というイメージが強いが、「エサの運び方も種によって全然、違うんです。1匹で運ぶのも、集団で運ぶの也不一样アリもあります。分かっているようで、分かっていないことがたくさんあるので、飽きないですよ」。研究対象としての魅力を説明してくれた。

研究の道に進んだきっかけは、小学5年

生の夏にさかのぼる。自宅の玄関でアリの行列を見るのが面白くて、夏休みの自由研究で観察日記を書いた。高校時代から生物学に興味を持ち始め、東京都立大学理学部生物学科へ。東京大学大学院、愛媛大学大学院などを経て、アリの社会性の発達、雌の繁殖能力などについて調べてきた。

奥の深いアリの世界

アリが好き。その一心で情熱を注いでいるが、「研究者になるなら、好きなだけでは駄目。何が研究になって、どのような実験をしたら証明できるのか。学問に高めていかなければ、ただの趣味で終わってしまう」。思うように結果が出ないこともあれば、英語で論文を書かなければいけない苦労も味わったからこそ出てくる言葉だ。

現在、研究しているのは、アリの変わった能力について。女王アリは、交尾した雄が死んだあとも体内に貯蔵した精子で10年以上卵を産み、繁殖を続ける。長期間、精子を常温で貯蔵できるメカニズムを解明しようとしている。

アリの生態は盛んに研究されているが、生態学とは異なる手法で、細胞という視点から機能を調べるのは極めて珍しいという。この謎を解明することができれば、家畜やヒトへの応用にも期待が広がる。

甲南大学理工学部は、理学と工学を融合し、学術分野の枠にとらわれず、多角的に研究する力を養っている。後藤さん自身も最先端の設備が整い、恵まれた環境で研究に取り組めると語る。



研究室のメンバーと日々アリの世界を追究する後藤講師(右)

100
100th ANNIVERSARY
KONAN GAKUEN

2019年4月、学校法人甲南学園は創立100周年を迎えます。これからも「人創り」の教育を受け継いでまいります。

オープン
キャンパス情報

8月7日(日)
10:00~16:00

岡本・西宮・ポートアイランドの
3キャンパス同時開催

大学説明会や学部・学科説明会、模擬講義をはじめ、甲南生によるイベントやキャンパスツアーなど、さまざまなイベントがめじろ押し。当日は神戸・東灘の有名洋菓子店「御影高杉」の甲南大学限定スイーツ「甲南ガトー」を参加者にプレゼント(数量限定)。このスイーツは、「KONANプレミアプロジェクト」の一つである神戸連携プロジェクトから生まれたものです。地域のスイーツ産業と結びつき、スイーツの研究を行っている甲南大学ならではの一品です。

甲南ch.

検索

甲南大学
KONAN UNIVERSITY

〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1